販が企画されるとか。時流として，精神衛生と併せて考えてみたいことである。そちらの専門は絵内先生がおいでなので協力が得られれば宜C.D.……。

国際的人権情報ネットワークについて

法学部助教授　山　崎　公　士

誰もが，世界のどこにいても自由に公平に，世界中のあらゆる情報に接することができれば，人々の視野は広まり，諸国民間の相互理解が深まり，人種・言語・宗教・文化を異にする集団の間の誤解・偏見・摩擦を少しでもやわらげることができるかもしれない。南アでのアパルトヘイトの問題や世界の各地で生じている難民問題のように，人権保障の問題は次第に国際的な関心事になりつつあるが，こうした人権問題を考えるにあたっても，できるだけ客観的な生の一次的情報に容易に触れる機会が多い方が望ましいことはいうまでもない。

欧米の人権に関する調査・研究機関の中には，国際的な人権状況についての生の情報をデータベース化し，国境を超えてこの情報を相互に交換するネットワークの構築に向けて取り組んでいる機関がみられる。ここでは，その代表例として，HURIDOCS（Human Rights Information and Documentation System，人権情報・ドキュメンテーションシステム）を紹介しよう。

HURIDOCSは，人権関係機関・研究所間の国際的および地域的なネットワークを構築し，人権に関する情報の広範な流通により人権の伸長と保護をはかることを目的として1982年に発足した。HURIDOCSは，①人権関係文献の書誌情報様式の統一（HURIDOCSスタンダード・フォーマット），②前記の情報のデータベース化，を既に実施中であり，さらに③諸国の機関・研究所間での前記情報の交換・検索を可能にするSIFTというシステムを現在企画中である。

HURIDOCSは，オランダのユトレヒトにあるオランダ人権研究所をはじめ，ノルウェー人権研究所，デンマーク人権センター等の研究所・機関を中心として活動している。①のHURIDOCSスタンダード・フォーマットは，人権関係文献のタイトル・著者・刊行地・刊行者・刊行年月日・頁数・言語・内容インデックス・地理インデックス・地理コードを書誌情報として，また内容の抄録もフリー・テキストとして記載するという形式をとっている。スタンダード・フォーマット化された人権関係文献情報はデータベース化されると同時に，オランダ人権研究所発行のニュースレターにも掲載されている。

HURIDOCSが現在取り組んでいるSIFT（Searching in Free Text）という情報検索システムは，他のシステム（例えば，アスキー・ファイル，アメリカ議会図書館のLC－MARC等）で作成された情報のほとんどを読み取ることができるとされているので，既存の情報を取り込むことも可能であり，さらに比較的小規模の機関や個人が人権情報を受け，あるいは発出することにも適している。

筆者は，9月に上記のオランダ・デンマーク・ノルウェーの研究所等の欧米の人権研究所や人権擁護団体を訪問し，人権情報の国際的交換の現状と問題点，わが国が果たしうる役割等について専門家と意見を交換した。その際多くの人から，日本の人権状況に関する情報が不足しているとの指摘を受け，改めて日本からも積極的に世界に向けて情報を出すべきことを痛感した。この点で，HURIDOCSのSIFTシステムが完成すれば，世界中の人権状況に関する文献・資料がデータベースの形で入手できるだけでなく，わが国からもスタンダード・フォーマットで人権情報を発出すれば，世界中の人々に容易に日本の人権状況を伝達できるようになると期待している。

本のソフトウエアとハードウエア

経済学部助教授　宍　戸　栄　徳

本学図書館では来年度から新しい計算機が導入され，学術情報センターとの接続をはじめとして情報化がいっそう進むことが期待されています。情報化のことが話題になると必ずハードウエア，ソフトウエアという言葉が引合いにだされます。

ところで，書籍の場合にはハードウエア，ソフトウエアといえば何を指すことになるのでしょうか。私は書籍の中に書かれている文章や写真，図表，さらにはそこにこめられる著者の考えがその書物のソフトウエアだと思います。したがってハードウエアは書籍そのものの存在ではないかと思います。最近ではワードプロセッサの普及により，個人で書物を作成することが可能になり，書籍のハードウエアにも関心を持たざるを得なくなってきました。

自分で文章を書き製本まで行おうとすると，いままで何気なく見落としていた事柄をいろいろと発見することがあります。その中で一つ興味深いのは，利き手の問題です。良く知られているように，文字というのは右利き用になっていて，左利きにははなはだ書きにくいものです。それでは本を読むときにはこのような違いは無いのでしょうか。横書きの本の場合，右側のページを左側にめくって読み進むのが通常の読み方です。逆に，日本語の通常の書籍の場合，左側のページを右側にということになります。この場合両方の形態があるのでなんとも言えないのですが，私は

右手で本の背を支え左手でページをめくるので，横書きの本の方が体によく馴染みます。縦書きの本はなんとなく読み辛いのです。

中学生の頃に，国語の時間に最近読んだ本について聞かれたことがあったのですが，先生の期待するような文芸書ではなく，何か数学パズルの本のことを話したので，先生は当惑したようです。これは私の利き手が私から縦書きの本，特に，文芸書を遠ざけていたのではないかと思っています。最後に，当時知ったパズルを紹介してみましょう。3冊組の英語の辞典が図書館に並んでいました。1冊の厚みがそれぞれ5センチずつであるとします。いま第1分冊の表紙に紙きり虫がいて，1日に1センチの速さで本に穴を空けて裏表紙の方へ向かって進んでいたとします。この紙きり虫が第3分冊の裏表紙に到着するには何日かかるでしょうか。

本にさわること

農学部助教授　彌　永　孝　一

高等学校に入学して間もない頃の出来ごと。ある日，全校朝礼の時間に，図書担当の先生から，「我が校が県下の図書館コンクール（？）で優勝した。」と誇らしげな報告を聞かされた。私は図書館のコンクール（？）って何だろうか，きっと在校生達が熱心に読書に励んでいるのだろうかとか，自分もしっかり本を読まなければいけないなあと思ったりしていた。それから何日か経ったある授業時間，例の先生が，クラス一同を図書室に案内して下さった。初めて入った図書室は，静かで，まことにきれいに整理整頓されている感じだった。受け付けの所には上級生（？）の図書係の女子学生が数人座っていて，我々を迎えてくれた。ちょっぴりまぶしかった。

またひとしきり自慢話しを聞かされている時だった。私はすぐ横の棚に並んでいる，何か外国の作家の十数冊も並んだ本の一冊を思わず取り出していた。帯出カードに何人かの人の名を見た。自分が未だ知らないような作家の小説が，すでに何人もの人に読まれている事に，大変感動し，興奮した気分になった。

説明の途中だったのがいけなかった。「本にさわるな!!」の怒声が飛んできた。ちようど，生いき盛りの年頃。「おい。皆んな，図書室には入ったら，本にさわったらいかんぞ。」と，にくまれ口を返した。

後日，職員会議で，我がクラスを「図書利用禁止1ケ月」の処分にすると紛糾している由。この一件は，自分ひとりの責任であるはずなのに，クラスの全員に及ぼすとはけしからんと，担当の先生との仲が悪くなった。ま，反省の意を表し，クラス担任のお骨折りで，処分はなくて済んだ。

しかし，この一件があってから，自分は高校3年間，一歩も図書室に足を運んだことがなかった。毎日の授業のこと以外に，ゆっくり好きな本を読む時間もなかったせいもある。

30年経った今でも，まことに悔やまれる出来事であった。

学生にとって，大学4年間は，全くめぐまれた時間だと思う。大いに図書館を利用していただきたい。もし，あなたのまわりに，図書館をあまり利用しない友人がいたら，ぜひ誘ってみて下さい。本にさわっている内に，きっと読んでみたくなる本に，めぐり逢えるはずです。

附属図書館について

教育学部3年　藤　原　美　紀

この夏から現在に至るまで，レポートの課題の山を抱えて日参した結果，図書館と私はとても仲良しになりました。それどころか今や悪友と言った方が適切かもしれません。最早私にとって，図書館は腰を落ち着けて勉強出来る場所では無くなりつつあります。私は，図書館での楽しみ方を覚えてしまったのです。

入学当初には，難解な書物ばかりを集めた巨大迷路のように思えたこの場所も，慣れてしまえば自ずと道を開いてくれるようです。初めてここに足を踏み入れた日に，期待していた小説の山に出会うどころか，原書と専門書の群れに恐れをなして逃げ出した苦い思い出もありますが，それも，もう過去のこと。今では辞書さえもがいとおしく感じられます。辞書はレポート作成に不可欠なだけでなく，とても面白いことに気付いたのです。

単に読書を楽しむだけならば，一般の公立図書館の方が便利かもしれませんが，資料を探すには，附属図書館の方が遥かに適しています。一体，私以外の誰が必要とするのかと怪しまれるような本も在り，無理だと思いながらも探した本が見つかった時には，喜びも一入です。こうなれば，もう，探し歩くのが楽しくてなりません。

このように探し求めて，書架から書架へと渡り歩くうちに，思いがけないものが見つかります。世界の料理，ヒトラー・ジョーク集，グリム童話集等々。そんな本を読む時間はあっという間に過ぎてゆき，更に探す気持ちを掻き立てます。こうして，多少騒がしかろうと，多少冷暖房の調節がまずかろうと，数歩歩けば望む本が手に入るという理想的な環境にもかかわらず（又はそのためか），勉学に励むつもりでいた時間の半分以上が，座席に付かないままに費されてしまうのです。（流石に気がとがめるのか，こう